



あれから100年・・・

## 同愛地区の防災活動とおした地域貢献

### 「わがまち発見! 防災ウォークラリー」

#### 当法人の 地域貢献活動について

当法人では、同愛記念ホーム（以下、ホーム）と同愛記念病院（以下、病院）のそれぞれが様々な形で墨田区等と連携した地域支援を展開しています。特に、ホームに所属する地域包括支援センターと高齢者みまもり相談室は、地域の高齢者に寄り添ったきめ細かな支援を実践しています。また、病院の医療・福祉相談室は、様々な医療・福祉の課題を抱える地域の方々への医療相談を行っています。

こうした地域密着型の取組として、2022年は病院が中心となり「大江戸プロジェクト」と称して医療と福祉の連携によって効果的に支援できた事例を題材に、地域の支援者との合同研修会を実施しました。そして2023年は、ホームが中心となり、10月に「第18回ふれあい地域交流会」を実施しました。ホームも病院も、支援を必要とする地域のみなさまに寄り添い、信頼していただくことで、地域に根ざした存在となれることを目指しています。

また、地道ではありますが、こうした地域支援の活動は

法人スタッフだけではなく、多くの関係機関、支援者の方々との異業種連携の輪を広げる好機にもなります。地域に踏み出し、顔を見ながら互いに話し合うことで届かない支援があると感じています。墨田区では、高齢者世帯に占める単身世帯の比率が72%を超えました。家族の支援がさらに得られにくくなっている高齢化社会に対応していくためには、受け身の支援だけではなく、こちらから出向くアウトリーチ支援がますます重要になると予想しています。同時に、こうした私たちの経験が当法人の福祉職等の人材を育て、未来を支える確かな資産となっていくことを願っています。地域支援の現場は、同時に支援する側の人材育成の教育現場になっていると感じています。

当法人の地域支援の活動は、地域貢献の一環にもなっています。墨田区の高齢者総合福祉計画における「地域共生社会の実現」や「地域包括ケアシステムの充実」に寄与することになり、私たちもその一翼を担っているものと自負しています。ホームと病院は、これからもいっそうの努力をして参りますので、みなさまからのかわらぬご支援を賜りますよう、この場をおかりしてお願い申し上げます。

#### 墨田区の 「関東大震災100年プロジェクト」

2023年は1923年の関東大震災からちょうど100年目となります。当法人は震災の翌年に、被災者の救援を目的に設立されました。墨田区では、震災から100年を契機に、地域で行われる様々な防災に関する取組をまとめ、一体的なイメージで展開していく「関東大震災100年プロジェクト」（右写真）を実施しています。「第18回ふれあい地域交流会」は、墨田区の防災プロジェクトとコラボし、同愛地区の高齢者を対象に、防災意識の啓発と健康増進のためのイベントとして「わがまち発見! 防災ウォークラリー」を企画しました。



▲関東大震災100年プロジェクト「すみだ防災100」ロゴマーク

#### 「わがまち発見! 防災ウォークラリー」の実践報告

当法人が同愛地区（横網、亀沢、石原、本所、東駒形、吾妻橋）の高齢者のみなさまを対象に実施しました「わがまち発見! 防災ウォークラリー」の実践報告をさせていただきます。この企画は、同愛地区の地域包括支援センターと各種介護サービス事業所などで構成される「DTN（同愛地域ネットワーク）どっとCOME」（以下、DTN）が主催しました。そのほか本所消防署や各町会役員、墨田区防災課、

民間企業やマスコミなど、多くの関係者のみなさまからのご支援を賜って実現しました。本当にありがとうございました。DTNは、過去に大相撲力士の協力を得てすもう健康体操を体験したり、福祉事業所を巡る企画なども実施してきました。今回の企画は事前PRの効果もあって、たくさんの方々に「どっとCOME（ご参加）」していただきました。

2023年10月の実施日は好天に恵まれ、参加者・スタッフ合わせて約80名が賑々しく参加しました。高齢の参加者にとって、1.4kmのコースはなかなかの運動量になりました。コース途中には8か所の防災設備等があり、これらをチェックポイントとしてスタッフが説明を行いました。参加者の方々にとっては、意外と知らない近所の防災設備やその使い方などを知るよい機会となりました。実際のウォークラリーの様子や見どころを写真とともにご紹介しましょう。



「わがまち発見! 防災ウォークラリー」の経路（1.4km）

START!

見どころ  
1

ソーラー携帯充電器

緑町公園



ソーラー携帯充電器

避難場所までの誘導標識の下には、太陽光発電により誰でも無料で携帯電話を充電できる設備が設置されています。



見どころ  
2

エリアごとの海拔表示



一時集合場所となっている近くの小学校に表示された海拔表示です。「日本水準原点」である東京湾からの高さを示しています。このエリアは意外と低いため、津波警報が出た場合には高い建物に垂直避難する必要があることを学びました。ここには災害用トイレの受水タンクも設置されています。

見どころ  
4

消防署による消火訓練



本所消防署の丁寧なご指導のもと、6班すべての参加者に対して消火器の使い方を実地にご指導いただき、体験しました。特に高齢者のみなさまにとっては、避難訓練等に参加する機会が少ないため、大変有意義な経験となりました。

見どころ  
3

消防資器材 格納庫



小学校に隣接する地区の消防資器材を格納している倉庫を特別に開けていただき、町会の役員さんから収納備品等の説明をしていただきました。こうした設備は町会ごとに設置されていますので、普段から自分の町会の設備を確認しておくことが大切です。

見どころ  
5

防災グッズ収納縁台



公園の屋根付き縁台は、ただの日陰のベンチではありません。災害時には、座面を起こすと防災用テント等が格納されており、同時に防災グッズの収納庫にもなります。この公園には、他にもソーラー園内灯や、ろ過して飲料水を作るための消防水利の設備もあります。

見どころ  
6

防災に取り組む町工場



ここは町会会館で、普段は被災者用担架や町会の防災備蓄品が保管されています。町会長さんからご説明を受けました。併せて、この場所を借りて近隣の舟岡製作所のご協力で、同社が手がける避難所の設備を紹介していただきました。写真黒色の仕切パネルは、同社の本業であるスポーツ施設の卓球用フェンスを避難所のパーティションに改造した製品となっています。町工場はとても頼りになる存在です。

見どころ  
7

防災用井戸(手動ポンプ)



この防災用井戸(手動ポンプ)は、ハンドルを押し下げると水口から地下水が出てきます。ただし、用途は生活用水に限られます。この敷地の所有者の方が地域のために設置したものです。参加者が体験するたびに軽々と冷たい水が出てきました。

見どころ  
8

災害用トイレスツール



さらに別の公園には何気ない二つの腰掛けがあり、座面を外してテントをかぶせると簡易個室トイレとなる仕組みです。マンホールを活用した設備で、同様の設備がこのエリアでは増え続けています。

GOAL!

大横川  
親水公園

ウォークラリーの  
ゴールです!



最後は、目的地である墨田区立大横川親水公園です。参加者全員が班ごとにテープを切って笑顔でゴールし、心地よい疲労感とともに充実した体験に話がはずみました。

おわりに

参加者の方々からは、アンケートなどとおして「自分の住む町なのに知らないことが多かった」、「スタッフが専門家なので安心して参加できた」、「スタッフのみなさんがこんな地味なことを普段から一生懸命にされていることに感謝したい」などといったうれしい感想をたくさんいただきました。当法人では、今回のイベント以外にも地域のみなさまと様々な企画を展開しています。

なお、お困りのことやご相談があれば、下記の相談窓口までご連絡をお願いいたします。



あれから100年・・・  
わたしたちの笑顔が、いまここにあります。

【当法人の相談窓口】

- ◆ 同愛地域包括支援センター(墨田区亀沢2丁目)  
TEL.03-3624-6541
- ◆ 同愛記念ホーム(相談員)(墨田区横網2丁目)  
TEL.03-3625-8356
- ◆ 同愛高齢者みまもり相談室(墨田区亀沢2丁目)  
TEL.03-3625-6421
- ◆ 同愛記念病院 医療・福祉相談室(墨田区横網2丁目)  
TEL.0570-200678(代表)

※無料低額診療事業のご案内もしています。